

粹 意気 息

宮永 岳彦

2026

6/13

S
A
T

12/6

S
U
N



| 開館時間 | 10:00~19:00

(入館は18:30まで)

| 観覧料 | 一般 300円

(隣接する「弘法の里湯」をご利用の方は200円)

高校生以下、障害者手帳をお持ちの方と介護の方1名は無料

| 休館日 | 月曜日(祝日の場合は翌日)・12/28~1/2

| 主催 | 秦野市

| 協力 | アストラム株式会社 小田急電鉄株式会社



秦野市立

宮永岳彦記念美術館

Takehiko Miyanaga Memorial Museum of Art

宮永岳彦 粹意氣息

2026. 6 / 13 (土) ▶ 12 / 6 (日)

宮永岳彦（1919～1987）を語るうえで「粹」という言葉は欠かせません。粹な絵、洒脱な風貌、そして生き方でも。そこで「粹」をキーワードに、「意気」、「息」の3つの視点から、作品に込められた宮永の感性、意気込み、息遣いを探ります。宮永は純粹絵画のほか、商業デザインなど幅広い画風を持つ多彩な表現者でした。普遍的で明確に描かれた作品は、今も輝きを放ち、見る人を魅了しています。激動の昭和を生き抜き、社会を鋭く見つめ、励んだ創作活動は、挑戦と探求で独自の画風の確立へと結実し、華麗に時代を彩りました。

本展では、油彩画やポスターをはじめ、一部初公開となる習作や下絵を展示し、完成までの制作過程や心情など、希有な才能から生み出される作品の原点をご堪能いただけます。その筆致から、一本の線にこだわり、真摯に画道と向き合った宮永の心に秘めた想いを感じてください。

そして、「いき」という言葉から派生した宮永の軌跡をたどることで、昭和101年を迎えた今こそ、宮永芸術の再認識と次世代への継承がなされることを願います。



《ムラサキの女》油彩・キャンバス
1962年



《20世紀》表紙原画 1966年



《母と生活》表紙原画 1961年



習作 1970年



《暖》油彩・キャンバス 1986年



《ラ・カーニヤ》油彩・キャンバス 1968年



銀座松坂屋「ローヤル銀座松坂屋誕生」
下絵 1964年

宮永岳彦 (1919～1987)

「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られる宮永岳彦は、父親の転勤のため静岡県磐田郡（現在の磐田市）で生まれ、名古屋市立工芸学校に学びました。2度の兵役後、実家のある秦野に帰り、松坂屋百貨店銀座店宣伝部に勤務しながら、1946年から15年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を続けました。二紀会の設立に参加、1979年には日本芸術院賞を受賞、1986年には二紀会理事長に就任。油彩画をはじめ、ポスター、童画、表紙画、挿絵、水墨画など多彩な作品を残しました。

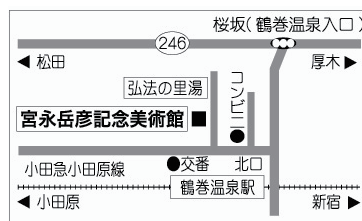
表 《講談倶楽部》表紙原画 1962年

秦野市立

宮永岳彦記念美術館

〒257-0001 神奈川県秦野市鶴巻北 3-1-2
TEL/FAX 0463-78-9100

《隣接》公営日帰り温泉 弘法の里湯 TEL 0463-69-2641



美術館へのアクセス

- ◆ 小田急線 鶴巻温泉駅より徒歩2分
- ◆ 駐車場 弘法の里湯と共用
40台 / 1時間150円
以降30分ごとに100円